

令和7年度第2回野洲市介護保険運営協議会  
議 事 録

開催日時	令和8年2月13日（金） 午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	野洲市役所 本館2階 庁議室
出席者 （委員）	西村委員、田中委員、谷委員、東森委員、岩本委員、畑野委員、小林委員、東郷委員、 城戸委員、中倉委員
欠席者	本田委員、富波委員
事務局	市長 健康福祉部：政策監、次長、介護保険課、高齢福祉課、地域包括支援センター
議 事	<p>(1) 会長及び職務代理者の選出について</p> <p>(2) 令和8年度介護保険事業特別会計予算について <span style="float: right;">【 資 料 1 】</span></p> <p>(3) 第10期野洲市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定の進捗について <span style="float: right;">【 資 料 2 】</span></p>
報 告	<p>(1) 野洲市介護保険条例の一部改正について <span style="float: right;">【 資 料 3 】</span></p>
資 料	<p>資料1：令和8年度介護保険事業特別会計予算について</p> <p>資料2：第10期野洲市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定の進捗について</p> <p>資料3：野洲市介護保険条例の一部改正について</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
	<p>1. 開会 出席 10 名。定員 12 名の半数以上の出席であり本会議が成立していることを報告。</p> <p>2. 挨拶 野洲市長櫻本より開会の挨拶</p> <p>3. 会議録署名委員の指名 議事録署名人に城戸委員と谷委員が指名された。</p> <p>4. 議事 (1) 会長及び職務代理者の選出について <u>会長に西村委員、職務代理者に谷委員が選出された。</u>  (公務のため、市長はここで退席)</p> <p>(2) 令和 6 年度介護保険事業特別会計決算について ＜資料 1 について説明＞  ＜委員からの意見は以下のとおり＞</p>
事務局	
A 委員	歳出の「1. 総務費」の総務管理費の詳しいデータは、資料 1 の 2 ページのどれと照らし合わせればよいか。
事務局	資料 1 の 2 ページ目の総務管理費は、事務的経費のみの掲載している。これに人件費を足すと A3 の表の総務管理費、1 億 96 万 8 千円の合計予算になる。
A 委員	A3 には人件費が含まれているが、明細のほうでは含まれていないのか。
事務局	おっしゃる通りである。資料 1 の 2 ページ目以降は事務的経費のみ掲載している。

A 委員	歳入の「6. 財産収入」は、基金の利子か。今年度の利子が 622 万円あるのか。
事務局	令和 7 年度予算策定時には基金利子の予算を 170 万 9 千円としていたが、金利上昇のため補正をし、170 万円には足りないくらい利子がついている状態である。令和 7 年度予算は、金利が低い令和 6 年度に策定したが、令和 8 年度は、もっと金利が上がることを想定しており、この差になっている。実際は 5 億 6 千万ほど基金を積んでおり、これを定期預金にして半年ごとに利息が入ってきている。
B 委員	<p>予防事業が大事であるという観点から質問する。</p> <p>歳出の地域支援事業費の包括的支援事業費と任意事業費が昨年比べて減っているのはなぜか。</p>
事務局	<p>任意事業費が 175 万 6 千円減っている要因は、令和 7 年度予算では介護相談員に予算を 200 万ほどつけていた。これは、介護事業所でサービス利用している人から相談を受ける事業だが、相談件数がほとんどないため一旦休止となっている。その代わりとなる事業を事業所からヒアリングした結果、高齢者のお話を聴く人がいると良いとのことで、令和 7 年度に傾聴ボランティアが立ち上がった。これにより、令和 8 年度も介護相談員事業は休止するため予算から抜いたことにより任意事業費が減額になっている。</p> <p>包括的支援事業費 515 万 6 千円のマイナスは、令和 7 年度に中主地域包括支援センターを立ち上げるための施設工事費等を見込んでいたが、実績は見込みよりも低かったためである。</p>
B 委員	減額になるとサービスが低下するのではないかという意味で聞いたが、実質的にサービスが低下しないことがわかった。
C 委員	資料 1 の 4 ページの認定調査員は何人いて、年間で何件くらい訪問するのか。27 ページに要介護認定者数、28 ページに要支援認定者数が記載されているが、年間の申請人数と認定された人数は何人くらいか。
事務局	<p>介護保険認定調査員は 6 人である。年間 2,000～2,100 件の申請があるが、中には認定調査前に取下げやお亡くなりになることもあるため、実際の訪問件数は申請数より若干少ない。</p> <p>申請には、新規申請、区分変更申請、更新申請の 3 種類があり、あわせて 2,000～2,100 件程度になる。中には必要性がない場合でも申請し、審査会で非該当と</p>

	<p>なるケースが年間 10 件程度ある。</p> <p>なお、非該当となっても、気持ちが沈むようになったあるいは階段が上りにくくなったなど、今までと体の調子が違うことについて基本チェックリストに基づき受付け、総合事業の対象者となればサービスを受けられるよう地域包括センターが動いている。</p> <p><b><u>本議案について 全員賛成で承認となった。</u></b></p> <p>(3) 第 10 期野洲市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定の進捗について        &lt;資料 2 について説明&gt;</p> <p>&lt;委員からの意見は以下のとおり&gt;</p>
事務局	<p>来年度 4 月以降、介護保険事業計画・高齢者福祉計画の中身を決めていく。前回の計画では皆さんからたくさんのご意見をいただき、多くの人の手に取ってもらえるような良いものになった。令和 8 年度の会議においても、皆はこういうことに興味がある等という忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
B 委員	<p>資料 2 の 4 ページ「⑧収入のある仕事」が多くなっている。ボランティアなどの活動もあるが、収入は仕事に対する報酬や評価なので、収入のある仕事に就いていることはすごく良いことだと思う。収入を得られる場が拡大しているのか、または野菜を売って収入を得るなど工夫してたことで拡大しているのか、背景にはどのようなものがあるのか。</p>
事務局	<p>働いている場所など詳細なデータはないが、年代、性別、圏域などによって分析する予定としている。データを分析することで、定年延長で働いているかなど推測できるので、属性分析を行い報告する。</p>
会長	<p>一般的には日本人の人口減、特に生産年齢人口が激減して働き手がないので、高齢者の働ける場所もあるのではないかと。詳細がわかったら報告してほしい。</p>
D 委員	<p>介護サービス費が減って介護予防サービス費に予算がついているが、野洲市の受け入れ人数が増えていくのか減っていくのか、在宅希望者の人数などの比率により予算配分も変わってくるので、そのあたりをもっと協議していく必要がある。心構えとしたいので、教えてもらえるのか。</p>

事務局	資料2の最終ページ9ページのスケジュールをご覧いただきたい。アンケートとは別に、人口動態、実際の認定者数の推移、サービスの利用状況を分析し、人口推計、認定者推計、サービス見込み量を推計し、協議会で示していく。
事務局	資料1のサービス費の予算が減っている件については、実績ベースで予算を組んでいるためであり、前年度は多めに見込んでいたことから減らしている。利用者を減らすということではない。また、認定者数も増えているため給付も伸びていくと見込んでいる。
会長	予算を組む段階で協議会にデータを出してもらえたほうが良かったのではないかと。過去の動向によりこのような予算になったと説明があれば説得力があったと思う。
E 委員	資料2の4ページの介護予防のための「介護予防のための通いの場」とは、どういったものか。
事務局	アンケート調査票では、「ふれあいサロン、いきいき百歳体操など」と記載している。
F 委員	支出が増えていくものについて予防できるものがあるのかという観点でのアンケートだと思うが、今後の予算編成の中で予防に関する予算と、支出予算を色分けしてはどうか。国としては、本来は減らしたいのだと思うが、減らす前にできることを模索していると思うので、そのような切り口でも見てもらいたい。
事務局	前年度の利用状況に応じた予算編成の説明と、介護給付が膨らまないように介護予防に力を入れていることがわかるような資料となるよう、色分け等含め考えたい。基本的には介護予防は地域支援事業費で行っているが、この資料だけでは不十分であり、市がどのようにやっていくか思いが伝わるように努力したい。
B 委員	資料2の5ページ「外出回数の減少」の要支援認定者のところについて、「減っている」との回答は、この1か月で減っているという意味か。
事務局	1か月ではなく、「昨年と比べて減っているか」を尋ねた設問になる。
B 委員	半数近くの方が、外出回数が減っていると回答しているので、介護予防の観点からは増やせるような方策が介護予防の計画に入れていく項目になると思う。外出

	できない人の要因など、もっと掘り下げて解析できると良い。
事務局	外出回数は、自立の方はあまり減っておらず、要支援者で減っている。「外出を控えているか」を問う別の設問では、外出を控えている場合はその理由を聞いているので、それも含めて理由や外出を増やす方法などの分析を深めていく。
会長	実態がわかる調査だが、事務局としてどこが成果でどこが課題ということを出してもらえたら論議しやすかったのではないか。
D 委員	要支援者が行きやすい、行ってみたいサービスがないことが課題である。
事務局	総合事業の通所型サービスCは3か所あり、元の生活に戻すことを目標として取り組んでいる。もう一つは通所型サービスB、住民主体のホビーハウス「ひだまりサロン」があり、要支援者と総合事業対象者がミニデイサービスのように通って、趣味や脳トレなど様々な介護予防の活動を行っている。要支援者が百歳体操などに行けなくなっても、緩和型デイサービスや普通のデイサービスに行く前の、一歩手前の通所Bや通所Cを利用し元の生活に戻すことを目標に地域包括支援センターで支援している。
G 委員	認知症については理解しているが、どうすればいいかわかっていない。家族は介護保険以外のサービスなどの情報がどこにあるかを知っていることが大切になると思う。
事務局	今回は調査期間が終わったので取り急ぎ調査結果を出したが、3月末に調査結果の項目を分析する予定である。そこで見えた課題は次回お示しする。分析結果をどう判断し、どうしたいかを説明できるような報告書にする予定である。
会長	第9期計画をみても報告書は分厚いため、ポイントを絞った概要版をお願いしたい。
E 委員	資料2の5ページで外出回数が減っているかを聞いているが、外出が増えたかという設問を設けていないのはなぜか。本気で予防して元気な人を増やしたいという意思を示すためには、外出回数が増えているかを聞いたほうがいいのか。 4ページで、自立高齢者が収入のある仕事をしていることについて、仕事をしていること自体が、予防効果が高いなどのデータはないのか。

